

## 冬どりキャベツにおける寒害発生の品種間差

### 研究のねらい

県内平坦部における冬どりキャベツの栽培では、低温による寒害の発生が大きな問題となっています。寒害の症状は、外葉部分が壊死・腐敗する「外葉壊死」（写真1）と、結球内の葉に黒い斑点が生じる「内部黒変」（写真2）に分けられます。

そこで、冬どりキャベツ品種を1～3月収穫の作型で栽培し、寒害の発生が少ない品種について検討しました。



写真1 外葉壊死



写真2 内部黒変

### 技術の特徴

- 1 「外葉壊死」の発生が少ない品種は、「夢ごろも」や「彩音」、「冬くぐり」、「冬のぼり」でした（図1）。
- 2 「内部黒変」の発生が少ない品種は、「彩音」、「冬のぼり」でした（図2）。
- 3 以上の結果より、「彩音」または「冬のぼり」を導入することで寒害を軽減できることが明らかになりました。
- 4 「彩音」と「冬のぼり」は寒玉系品種であり、晩抽性に優れ、在圃性および収量性ともに高い品種です。

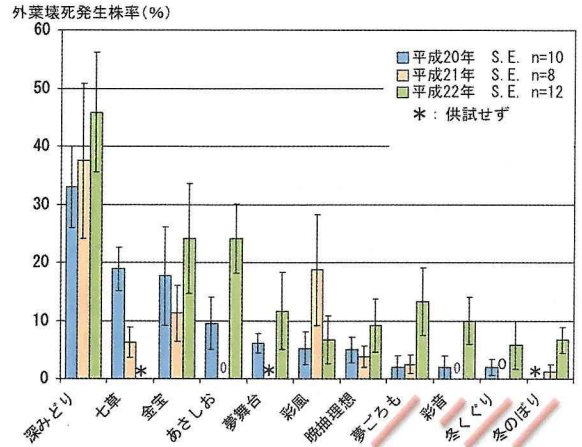


図1 供試品種の外葉壊死発生株率

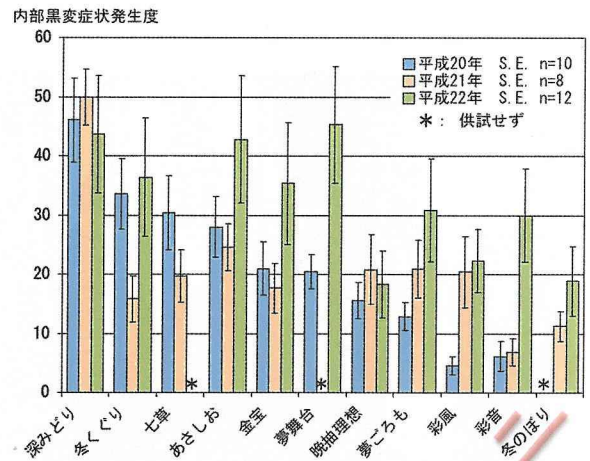


図2 供試品種の内部黒変発生度

### 今後の取り組み

冬どりキャベツにおける寒害発生程度には品種間差があり、「彩音」や「冬のぼり」など、発生の少ない品種を導入することにより、被害の低減が期待されます。しかし、気象条件や収穫時期によって発生程度が異なることから、品種による対策だけでは不十分といえます。

今後、寒害発生のメカニズムの解析を行い、それに基づく簡易な耕種的防止技術の開発により、寒害の発生の低減を目指します。

(執筆者：瀬山 祥平)